

2021年2月26日

報道機関 各位

国立大学法人 東北大学大学院医学系研究科
東北大学病院
学校法人 東北医科薬科大学

震災後の妊娠女性の心理的苦痛にも目をむけて
東日本大震災後の被災地域では内陸部で精神的ジストレスが高かった

【発表のポイント】

- 東日本大震災後3年間にわたり、宮城県における妊娠女性の精神状態（精神的ジストレス^{注1}の有病率）を調査した。
- 直接的な津波の影響の少なかった宮城県内陸地域でも、特に、精神的ジストレス有病率は全国の他の地域と比較して一貫して高かった。
- 大規模災害後は妊娠女性が不安なく過ごせる環境を維持し、被災地の周辺地域を含めた長期的な支援を行うことが重要である。

【研究概要】

母体の不安や抑うつは、早産、低出生体重、妊娠高血圧症候群などの周産期合併症や産後の育児障害、児の神経発達障害に繋がることから、近年、妊婦さんの精神的ケアが重要視されています。東北大学大学院医学系研究科婦人科学分野/東北大学病院産婦人科 田上 可桜（たのうえ かおう）医師、渡邊 善（わたなべ ぜん）助教、東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生学教室 目時 弘仁（めとき ひろひと）教授らのグループは、東日本大震災後の被災地域（宮城県）における妊娠女性の精神的ジストレスの有病率に関する経年変化を検証し、内陸地域では一貫して精神的ジストレスを有する妊娠女性の頻度が高いことを明らかにしました。本研究は、震災の被害が大きかった地域のみならず周辺地域にも注目すべきであることを示唆した初めての報告です。

本研究結果は、2021年2月27日（日本時間2月27日午前9時）に *Environmental Health and Preventive Medicine* 誌（電子版）に掲載されます。

本研究は、環境省が実施しているエコチル調査の結果を用いて行われましたが、研究者の責任によって行われているもので、政府の公的見解を示したものではありません。

【研究内容】

母体の不安や抑うつは、早産、低出生体重、妊娠高血圧症候群などの周産期合併症や産後の育児障害、児の神経発達障害に繋がることから、特に近年では妊婦さんの精神的ケアが重要視されています。東日本大震災後、宮城県、特に津波の被害が大きかった沿岸地域では精神的苦痛を感じる妊婦さんの割合が高いことを報告してきましたが、その後の経年変化については明らかになっていませんでした。

本研究は子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の一環として実施しました。2011年から2014年にかけて日本で行われたエコチル調査の全国データから、宮城県の8,270人とその他全国13のユニットセンターの67,882人を含む76,152人の妊婦さんを調査対象としました。さらに宮城県は津波の被害が大きかった沿岸地域（3,255人）と直接的な影響は少なかった内陸地域（5,015人）に分類し、東日本大震災後3年間の妊婦さんの精神的ジストレス有病率を調査しました。

その結果、宮城県では東日本大震災後、精神的ジストレスを有する妊婦さんの割合は改善しておらず（3.75%から5.14%）、さらに宮城県内陸地域では全国13のユニットセンターと比較して一貫して精神的ジストレスを有する妊婦さんの割合が高いこと（4.50%から5.81%）が分かりました（図1）。

また、妊娠期間中に精神的ジストレスを有するリスクを解析した結果、2011年前期の全国13ユニットセンターと比較して、宮城県の妊婦さんでは精神的ジストレスを有するリスクが高く、特に宮城県内陸地域で顕著にリスクが高いことが分かりました。これは、妊婦さんの精神状態と関連性の高い精神疾患既往（うつ病や不安障害など）や社会経済要因（年齢、学歴、収入、嗜好など）を加味した検討においてもリスクが高いままでした（図2および3）。

結論:本研究により大規模災害後、直接的な影響を受けた地域だけでなく、周辺地域も含めたより広範なケアが必要と考えられます。また今回東日本大震災後3年間の調査では被災地域で妊婦さんの精神的ジストレスのリスクは改善しておらず、より継続的なフォローも必要であると考えられます。妊娠中の母親のストレスは注意障害、学童の知能指数の低下、および内面化と外面化の問題行動になど子供の長期的な成長に影響を与えるとされています。大規模災害後は妊娠女性が不安なく過ごせる環境を維持し、被災地の周辺地域を含めた長期的な支援を行うことが重要です。そのために災害時に母子に焦点をあてた支援を行うためのシステムの構築が今後必要であると考えられます。

エコチル調査では引き続き、子どもの発育や健康に影響を与える化学物質等の環境要因を明らかとすべく調査を続けていきます。調査に協力をいただいた妊婦さんと子どもさん、そのご家族の参加者に深く感謝申し上げますとともに、今後の引き続きのご協力をお願い申し上げます。

【用語説明】

注1. 精神的ジストレス：耐え難い心理的な苦痛を感じている状態をさす用語。K6は精神疾患をスクリーニングするために開発された尺度。本調査では、K6の点数が13点以上を精神的ジストレスありと判定しました。

【エコチル調査について】

子どもの健康と環境に関する全国調査は、環境が子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境を作る」ことを目的に2010年度に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが13歳になるまでの健康状態や生活習慣を2032年度まで追跡して調べる計画です。

エコチル調査は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された15の大学に調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が共同して調査を行っています。

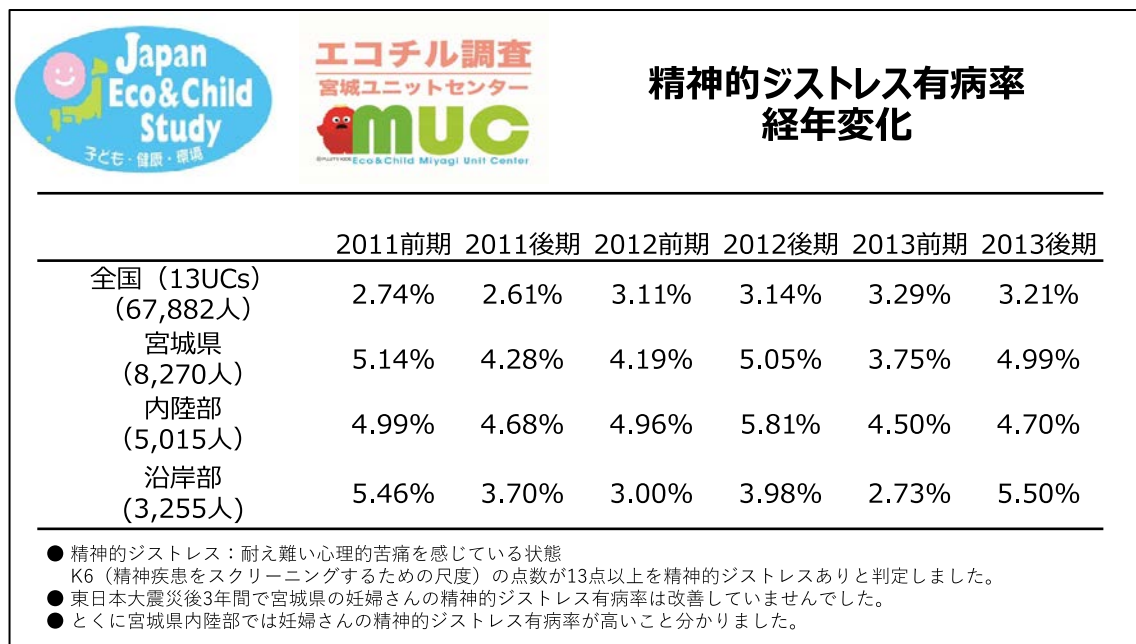


図1 精神的ジストレス有病率経年変化

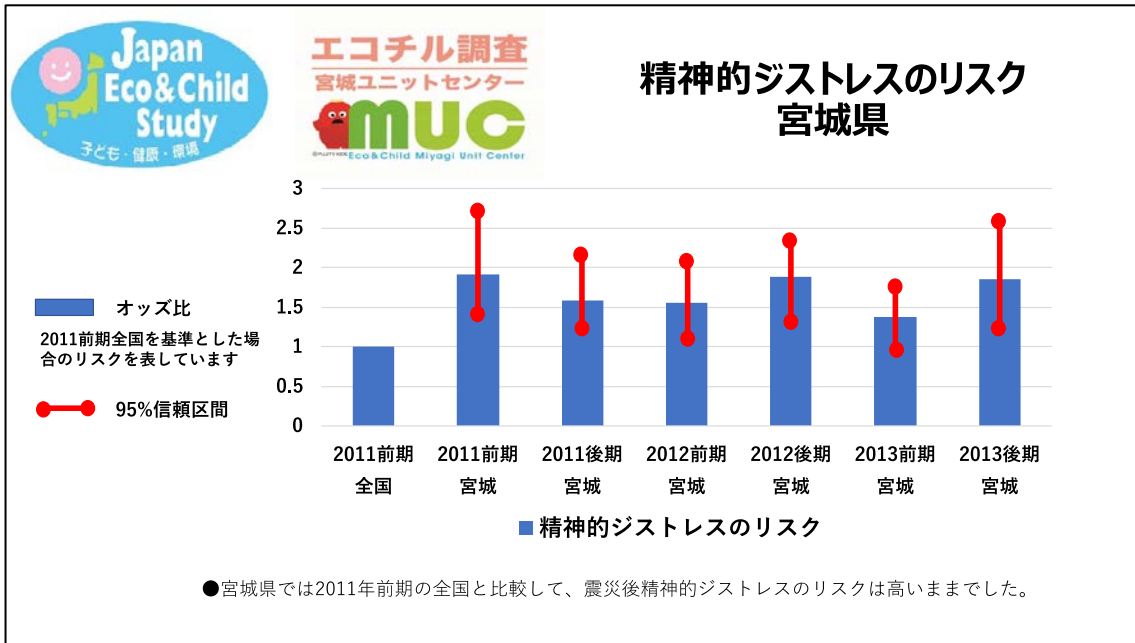


図2 精神的ジストレスのリスク（全国）

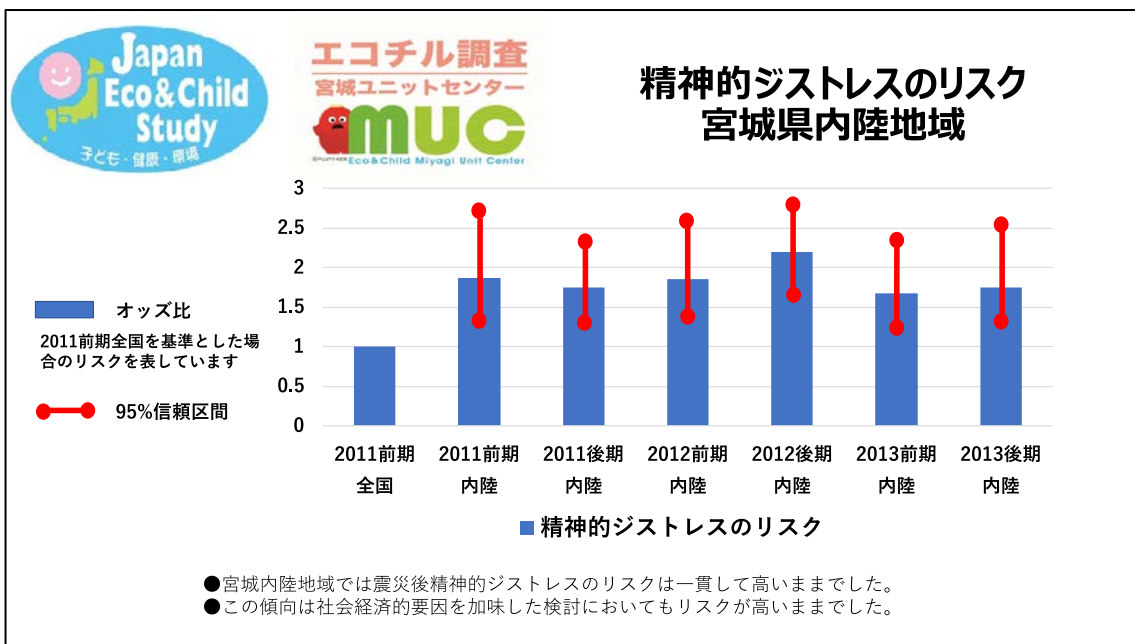


図3 精神的ジストレスのリスク（宮城県内陸地域）

【論文題目】

English Title: The prevalence of psychological distress during pregnancy in Miyagi Prefecture for three years after the Great East Japan Earthquake : The Japan Environment and Children's Study (JECS)

Authors: Kaou Tanoue, Zen Watanabe, Hidekazu Nishigori, Noriyuki Iwama, Michihiro Satoh, Takahisa Murakami, Kosuke Tanaka, Satomi Sasaki, Kasumi Sakurai, Mami Ishikuro, Taku Obara, Masatoshi Saito, Junichi Sugawara, Nozomi Tatsuta, Shinichi Kuriyama, Takahiro Arima, Kunihiko Nakai, Nobuo Yaegashi, Hirohito Metoki, and Japan Environment & Children's Study Group

タイトル：「東日本大震災後 3 年間の宮城県における妊娠中の精神的ジストレス有病の変化：エコチル調査」

著者名：田上可桜、渡邊善、西郡秀和、岩間憲之、佐藤倫広、村上任尚、田中宏典、佐々木里美、櫻井香澄、石黒真美、小原拓、齋藤昌利、菅原準一、龍田希、栗山進一、有馬隆博、仲井邦彦、八重樫伸生、目時弘仁、エコチル調査グループ

掲載誌名: Environmental Health and Preventive Medicine (電子版)

doi: 10.1186/s12199-021-00944-2

【お問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学大学院医学系研究科婦人科学分野

東北大学病院婦人科

助教 渡邊 善(わたなべ ぜん)

電話番号: 022-717-7251

Eメール: zen.watanabe.e8@tohoku.ac.jp

東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生学教室

教授 目時 弘仁(めとき ひろひと)

電話番号: 022-290-8727

Eメール: hmetoki@tohoku-mpu.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

電話番号: 022-717-7891

FAX 番号: 022-717-8187

Eメール: pr-office@med.tohoku.ac.jp